

第4次総合計画後期基本計画策定の進捗等の全体像と目指す姿・成果指標について

後期基本計画策定の考え方

●バックキャスト

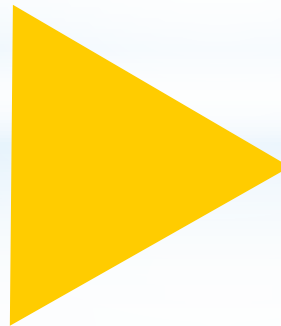


この順番で作成

●要素の細分化

現状

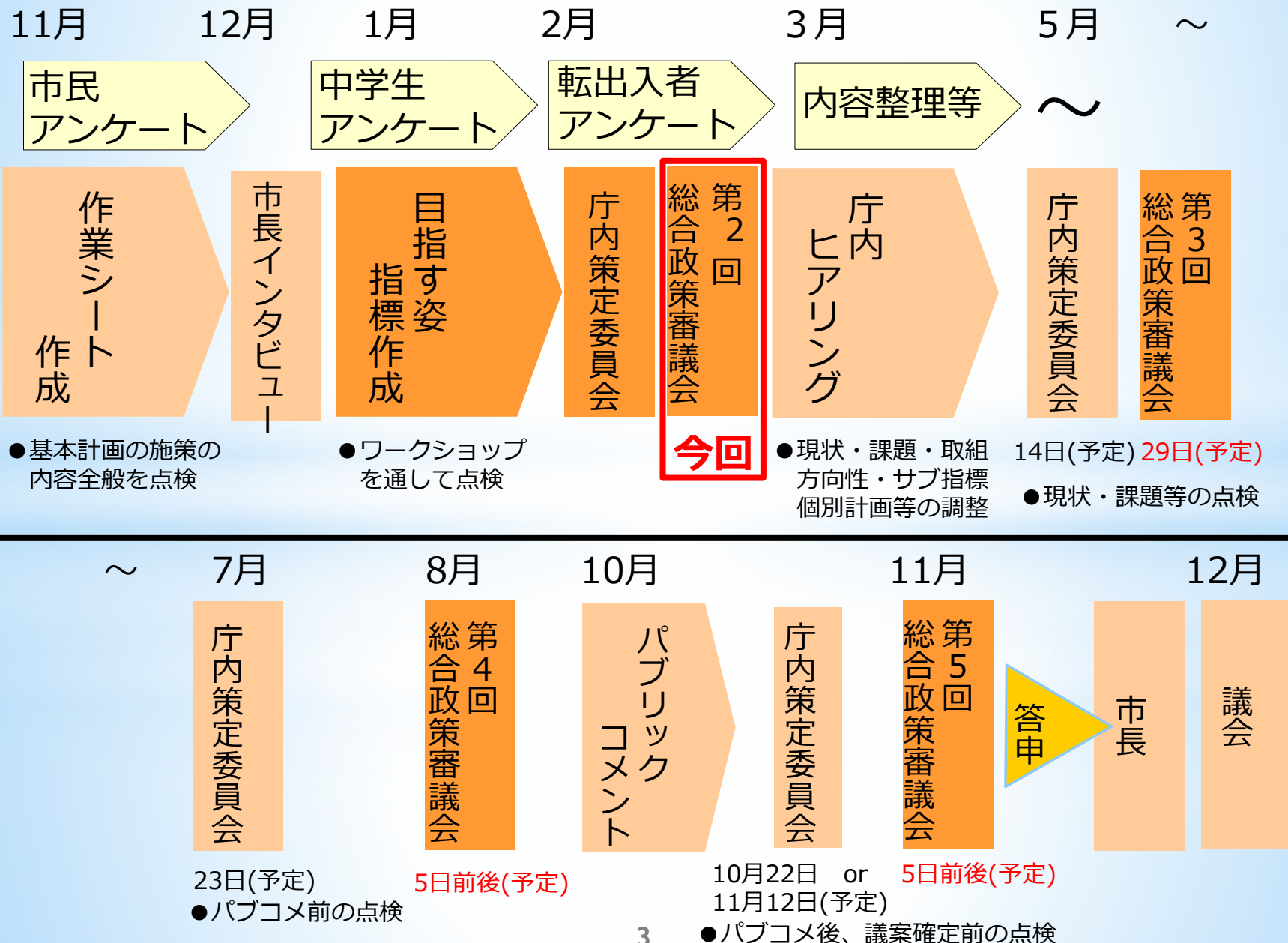
- ・ 目指す姿
- ・ 成果指標(主観的)
- ・ 現状・課題
- ・ 取組み例
- ・ 関連する個別計画



今後

- 現在の内容に加えて見直し
- ・ 現状と課題の分離
 - ・ 取組みの方向性の追加
 - ・ 方向性の説明の追加
 - ・ サブ指標(客観的)の設定

後期基本計画策定の進捗



前期基本計画の見直し

1 保育・幼児教育

目指す姿

① 目指す姿

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

現状・課題

③ 現状・課題

- 就労形態の多様化や共働き世帯の増加などに伴い、保育ニーズは年々増えており、すべての子どもに「5園」を開設するなど受け皿確保に努めているものの、待機児童の解消には至っていません。保育・幼児教育にかかる資源を最大限活用しながら、多様な保育ニーズに柔軟に対応できる体制の構築が求められます。
- 生活習慣や社会性、豊かな感性を育む生活体験は子どもにとってとても重要な体験ですが、共働き世帯の増加や家庭の小世帯化により、その機会が減少しています。それを補う上で、保育・幼児教育の重要性は増しており、子どもの豊かな成長のため、さまざまな生活体験を提供していく必要があります。
- すべての市立幼稚園の耐震化が完了しましたが、築40年を経過した施設が多くあり、老朽化が進んでいます。子どもが安全に生活できるよう、計画的な施設設備の保守管理が求められます。また、変化する生活様式に対応した、幼児期にふさわしい生活環境を整える必要があります。
- 適正な集団規模を確保することは、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育にとって大変重要なことですが、本市の市立幼稚園の総園児数はピーク時から8割減少し、園児数の減少傾向は著しい状況です。今後さらに小規模化が進むと見込まれることから、再配置を含めた、幼稚園規模の適正化を図ることが求められます。



屋外保育

関連するSDGs



成果を測る指標

② 成果指標

幼少期の子どもの笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合

実績値：42.6%

取組み例

④ 取組み例

体制

- 私立保育園と連携し、受入れ体制の整備を図ります
- ★ 保育士・幼稚園教諭の確保と保育士・幼稚園教諭の処遇改善を図ります
- 幼稚園・保育所・認定こども園などが相互に情報共有・連携をします
- 保育・教育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- 柔軟な保育・教育ができる人材を育成します
- 障がい児加配*講師・保育士を継続して配置します

内容

- 保育サービスについての詳細な情報を提供します
- 外部専門家・地域交流などによる魅力的で豊かな人間性を育む体験を提供します
- 多様な就労形態や保護者ニーズに対応するための保育を実施します

施設

- 「就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針」に基づき実施計画を策定し、保育所・幼稚園の再編に取り組みます
- 計画的に機器・教材・施設などを整備するとともに、ICT*化を図ります

⑤ 関連する個別計画

個別計画

- ▶ 榎原市食育推進計画
- ▶ 榎原市子ども・子育て支援事業計画
- ▶ 榎原市就学前保育・教育指針
- ▶ 榎原市就学前人権保育・教育指針
- ▶ 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針
- ▶ 榎原市学校施設整備基本計画
- ▶ 榎原市教育施設再配置基本方針
- ▶ 榎原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 榎原市教育大綱

12月に実施したワーク

作業シート

作業シート		実施に必要となる事前準備	
項目	内容	項目	内容
1	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
2	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
3	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
4	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
5	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
6	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
7	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
8	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握
9	現状・課題の把握	現状・課題の把握	現状・課題の把握

※「現状・課題」については、前年度基本計画策定時（令和元年～2年）の内容から現在の社会情勢や市の状況に応じた内容に更新します。現在の 内容が詳細過ぎるため、簡潔にまとめます。

※「取組みの方向性」については、前年度基本計画策定時（令和元年～2年）の内容から現在の社会情勢や市の状況に応じた内容に更新します。現在の 内容が詳細過ぎるため、簡潔にまとめます。

※「サブ指標」については、後年度基本計画から簡易分野ごとに定量的なサブ指標を設定します。ただし、計画冊子には掲載せず、参考資料として評価シートに記載するものとします。取組みの方向性レベルで1つ設定できるのが望ましいです。実績については、ヒアリング等で調整していきます。

後期基本計画の再構成

施策内容の

- ① 目指す姿
 - ② 成果指標
 - ③ 現状
 - ④ 課題
 - ⑤ 取組みの方向性
 - ⑥ 方向性の説明
 - ⑦ 取組例
 - ⑧ サブ指標
 - ⑨ 個別計画
- を各担当課レベルでまず
お示しいただきました。

1月に実施したワーク

施策の目指す姿と成果指標について担当課同士で見直していただきました。

見直しのポイント

- 職員が目指す姿を読んで、共通して具体的にイメージできるものにするため
- その目指す姿に沿って、市民が評価できる指標を設定するため

見直ししていただいたところ

前期基本計画

1 保育・幼児教育

目指す姿

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

現状・課題

- 就労形態の多様化や共働き世帯の増加などに伴い、保育所への入所希望者は年々増えており、独自でこども園*5園を開設するなど受け皿確保に努めているものの、児童*の解消には至っていません。保育・幼児教育にかかる資源を最大限活用しながら、多様なニーズに柔軟に対応できる体制の構築が求められます。
- 生活習慣や社会性、豊かな感性を育む生活体験は子どもにとって重要な体験ですが、共働き世帯の増加や家庭の小世帯化により、その機会が減少してしまっている。保育・幼児教育の重要性は認識されており、子どもの豊かな成長のため、充実した環境を整える必要が感じられます。

担当課を越えて、市として目指すあるべき姿を、職員が具体的にイメージできるように表現を見直していただきました。

関連する
SDGs



成果を測る指標

幼少期の子ども笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合

実績値：42.6%

取組み例

体制

- 私立保育園と連携し、受入れ体制の整備を図ります
- ★ 保育士・幼稚園教諭の確保と保育士・幼稚園教諭の処遇改善を図ります
- 幼稚園・保育所・認定こども園などが相互に情報共有・連携を図ります
- 保育・教育施設と小学校・中学校との連携を推進します
- 柔軟な保育・教育ができる人材を育成します
- 働き方改革推進図示の保育士・幼稚園教諭の配置を推進します

目指す姿を基に、市民が具体的にイメージできる内容で問いかけができる指標を見直していただきました。

具体的には

作業シート

場所

課室名	こども政策課
課室名	こども未来課
みんなが活躍し、個性輝くまち	
保育・幼児教育	

施策分野の目指す姿
と希望を描いています。

成果を測る指標
と育っていると感じる市民の割合

施策に体系付けられる事務事業		
教育・保育総務事務	私立幼稚園・保育所等補助事業	保育所・幼稚園管理運営事業
子ども・子育て支援事務		

※施策に体系付けられる事務事業は計画非掲載の予定です。

主担当課

施策分野の目指す姿	
保育所・幼稚園等で子どもたちがいきいきと学びや遊びを行っています。	①
幼児期の子どもが、生き生きと活動する姿	
成果を測る指標	
保育所・幼稚園等で自分の子どもの笑顔が輝き、いきいきと育っていると感じる保護者の割合	②
幼児期の子どもが笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合	

子ども政策課
子ども未来課
子ども政策課
子ども未来課

参考「徳原市就学前の保育・教育指針」めざすこども像
いきいき・わくわく・にこにこ笑顔輝く子ども

↓ 整合

施策分野の目指す姿	
その理由	②
成果を測る指標(複数可)	

①事前に施策を担当する課から、それぞれの目指す姿と成果指標を示していただきました。

②ワークショップで久会長の講義を受けていただいたのちに、担当課同士で調整していただきました。

総合政策審議会では

- ワークショップを通して作成していただいた各施策にある目指す姿の検討
- 目指す姿に対応する評価指標の検討